



従業員には 満足感が得られる 環境を提供したい

秋枝 照美さん

TERUMI AKIEDA

●共栄産業株式会社 代表取締役



父との約束で 大学は土木科に進学

高校を卒業する頃、お父さんとの約束で家業を継ぐことになった秋枝さん。最初は抵抗もあったそうです。

「姉がいたのですがさっさと違う道に進んでしまったので、なんとなく自分が後を継ぐのかなあ、とは思ってました。ただ、私もやりたいことがあったので、最初はちよつと抵抗したんですよ。父親との約束で『行きたい大学に落ちたらウチを継げ』ということになって、結局その通り土木系の学科がある大学に行くことになりました」

その当時、土木系を目指すのはほとんどが男性という時代でした。4年間通った大学の土木科も、秋枝さん以外は全員男性だったそうです。

「4年間、女性は私一人でした。そのせいか、先生は大切に扱ってくれましたよ。実習で男子学生は肉体労働をしても、私には測量をさせたりとか（笑）。その時の先生に『お前は男を使う立場になれ』と言われたのを覚えています」この言葉が、経営者としての現在の立場を示唆していたのかもかもしれませんね。

「高校時代はバレーボール、大学の4年間は剣道部で、スポーツはけっこうやってたんですよ。でもやっぱり体力的には男性には及びません。だから先生の言葉は

『知識を積み重ねて指示する立場になれ』という意味だったのでしょうか」

土木の先行きに不安を感じ 転職を考えたことも

卒業後は地元に戻り、家業の事務を手伝うことに。28才で結婚して、2児の母親となります。その後、一時期山口市の土木会社に勤めたこともあるそうです。

「山口の会社にいる時に現場を経験しました。男性ばかりの現場ですが、仕事は楽しかったですよ。活気があって、みんな楽しく仕事をしました。ただ、子供にはずいぶん迷惑をかけましたね。朝早く起きて準備をして子供を送り出すんですが、仕事の都合で帰りが遅くなることも度々です。家にいる時間が短いので、当然子供の世話も充分にできません。私の理想は『女は子供を育てる、男はちゃんと仕事をする！』です。だから子供が帰る時は家で迎えてあげたいと思ってたのですが、それができなかつたから子供たちには申し訳なく思っています」

秋枝さんは、この頃転職を考えたといえます。

「先のことを考えると、土木業はダメなんじゃないかと思ってま

したね。これからは福祉の時代だと。だから仕事を辞め、介護の学校に行つて資格を取りました。ところが、いざ介護の仕事をしようとすると、自分一人が働いただけでは子供が育てられないのです。これではいけないと思って、もう一度土木の仕事に戻りました」

女性だから できることがあるんです

5年前に旦那さんが病死。それを機に、秋枝さんは地元に戻ります。お父さんが代表を務めていた土木の会社（株式会社ヒロ）はすでに売却しましたが、お母さんが代表だった林業の会社を継ぎ、新たに土木の会社として再スタートすることにしました。

「最近ようやく自分の時間が持てるようになったんですよ。でも去年までは、毎日夜8時、9時まで仕事をしました。会社の経営に馴れていないこともあったんで、しょうが、作業員は男性ばかりですからやっぱり大変なことも多いんですよ」

そんな秋枝さんは、女性だからできること、女性だから見えるものもあるといえます。

「私は、男女問わずやる気のある人と一緒に仕事をするのが好きなんです。そのためには、楽しく仕事ができる環境がなくてはなりません。それをつくつてあげるのが私の役目だと思っています。きめ細かな目配りは女性のほうが得

意です。女性の特性を活かして、いい作業環境をつくつていきたいと思っています」

女性も頑張れる時代 一緒に業界を 盛り上げましょう

最近土木や建設業に携わる女性が増えてきました。最後に、秋枝さんにこうした女性に向けたメッセージをいただきました。

「世の中が変つてきて、女性が頑張れる時代になってきました。土建業にも女性が増えてきましたから、本当に応援したいですね。努力してスキルを上げて下さい。勉強して、いろいろな免許も取つて下さい。それが報われる時代です。当社にも女性社員がいますから、彼女たちにも期待しています。ただ、結婚して子供が生まれたら、子育てにも絶対に手を抜かないこと。これもお願いします。同じ業界の同じ女性として、一緒に頑張つていきましょう！」

秋枝さんのような朗らかで前向きな女性が増えれば、土建業界も一層盛り上がるのではないのでしょうか。

